

国際社会開発研究科国際社会開発専攻 修士課程(通信教育)

1. 修士課程の概要

1) 研究科の特色

本研究科は 2002 年度設置です。本研究科では、皆さんがもつ貴重な開発事例や経験を踏まえ、それらの総合化・相対化に重点を置きます。具体的には、マクロ経済からミクロ社会、現状分析から政策論にわたる開発関連諸分野について総合的に学び、開発諸領域を包括する「開発学」の枠組みを修得しながら、個々の開発事例・経験を修士論文としてまとめるための研究指導を行います。

2) 入学者に求める人物像 (アドミッション・ポリシー)

本研究科の目的は、主として発展途上国の社会開発領域での実践的課題に対して、確かな方法論と論理性を以て取り組むことのできる専門職業人の育成です。

各人の経験を開発学の枠組みで体系化させることを通して、多様な実践現場で求められる専門的な洞察力、判断力、コミュニケーション能力を養うことを目標としています。そのために、国際社会開発を学ぶに足る関心や社会経験を備えた、熱意ある人々を受け入れます。

3) 教育課程編成の考え方 (カリキュラム・ポリシー)

実学としての開発学では、マクロの政策期待とミクロの社会的能力を、如何なる仕掛けで結ぶかという制度論 (中間領域) が重要な位置を占めています。また、政策科学の 1 つとして、現実の姿 (存在) から在るべき姿 (当為) へ、如何なる行為 (方法論) で到達するかの実務的課題を抱えた学問分野でもあります。本研究科の教育課程は、開発に関連する諸分野を、仕掛け (制度論) と行為 (方法論) を中心に、下記の 9 つの分野と 6 つの研究領域に区分けして「開発学」として体系化されています。

さらに開発関連分野の中で重点的課題に注目して、これらの特論的に派生させる形で、多様な科目群を構成させるとともに、これら先端分野の基礎として「開発教育」「開発と文化」「環境と開発」等の研究領域を定めています。

4) 学位

修士 (開発学) Master of development studies

5) 学位授与方針 (ディプロマ・ポリシー)

本研究科では、次に該当する人に修士 (開発学) の学位を授与します。

- ・国際社会開発領域の基礎的かつ実践的課題に取り組みながら、関連領域の基礎的知識を理解できる。(知識・理解、技能・表現)
- ・社会科学的方法論に基づき、フィールドワークを設計・実施し、また、課題に対応した質的・量的分析をしていくことができる。(知識・理解、技能・表現)
- ・各人のそれまでの現場の経験や実践事例を、相対化し、開発学の枠組み (理論や方法) によって体系化/総合化することができる。(思考・判断)
- ・上記を踏まえ、国際社会開発領域における十分な専門知識及び開発方法論を備えた高度な専門職業人として役割を果たすことが期待できる。(知識・理解、技能・表現、態度)
- ・専門分野を超えた豊かな連帯と国際的なネットワークの一員としての役割を果たすことが期待できる。(技能・表現、態度)

6) 修了要件

本修士課程に 2 年以上 (1 年修了の場合は 1 年) 在学し、基礎教育科目を 2 科目 4 単位以上、

展開科目Ⅰおよび展開科目Ⅱを5科目10単位以上、地域開発研究科目を2科目8単位以上、リサーチ科目を8単位、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出しその審査及び最終試験に合格することを修了要件とします。

7) 履修登録

□修了に必要な単位数の詳細

各入学年度の修士課程修了要件として必要な単位数は、下記のとおりです。

<2018年度の入学者>

科目区分	略称	必要単位数
基礎教育科目	テキスト科目	4単位以上
展開科目Ⅰ	テキスト科目	展開科目Ⅰおよび展開科目Ⅱの中から 5科目10単位以上
展開科目Ⅱ	テキスト科目	
地域開発研究科目	スクーリング科目	地域開発研究科目の中から 「特定地域開発研究」「海外開発実践」を除く1科目4単位以上を含む2科目8単位以上。ただし、2科目における実施国は同一国であってはならない。
リサーチ科目		8単位（修了時に一括して取得）
	合計	30単位以上

8) 設立以来の課程教育充実のための取り組み概要

本研究科は、文部科学省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業に採択(2005～06)されて以降、課程教育の充実に取り組んできました。この事業は、さまざまな海外研究教育拠点の連携強化を通じて、国際社会開発領域における国際的な研究教育ネットワークを構築しながら課程教育の充実を図る中で、大学院学生同士がグローバルに切磋琢磨しうる教育研究環境を拡充し、修士課程から博士課程まで一貫して若手研究者の養成を目指したものです。これからも、事業期間中に整備されたインフラやネットワークを活用して、引き続き、学生の理論的かつ実践的な研究活動について、以下に例示される支援を継続しています。

(1) 国際的な研究フィールドの拡充

- ・世界の海外拠点校に加え、リソースパーソンから開発フィールドの紹介やフィールドワークの支援。
- ・海外拠点教授による英語でのテキスト科目「Social Development」の実施や研究調査アドバイス。
- ・在外外国人博士課程学生を含めグローバルに切磋琢磨する研究教育環境の醸成。

(2) 研究教育資源の蓄積

- ・海外拠点校や海外リソースパーソンから多様な開発教材・研究資料を集積。
- ・集積された開発教材・研究資料について、研修指導やテキスト科目「Social Development Case Studies」等での活用。

(3) ITを活用した教育研究支援

- ・集積された開発教材・研究資料について、動画像データ等のメディアを活用。

における研究者養成の履修プロセス概念図※

入学者層の社会開発領域における現場経験

長い

短い

例: 援助機関専門家
NPO/NGO 専門職員

例: 青年海外協力隊員
インターンシップを経た新卒学生

【実施フィールド】

【インターネットを活用した通信教育】

【実施フィールド】

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□ 特定地域開発研究

学生各自がフィールドを設定して自主的に行う開発現場での調査・研究活動に対して、研究課題との関連性や方法の適合性をチェックして評価し単位を認定。
なお、学生の実証研究の展開を促進するため、本学においても多様なフィールドを用意する。

巡回による対面指導

研究指導
および論文指導

履修指導

- 開発基礎論の教育・指導
- 研究方法に関する基礎教育
- フィールド調査法に関する基礎教育

- 基幹科目群の教育・指導
- 特別教育科目群の教育・指導

研究指導
および論文指導

研究計画書の確定に向け指導

巡回による対面指導

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

□ 地域開発研究 (スクーリング)

本学の設定した複数の開発現場での講義・フィールドワークにおいて教育・指導

国内外の企業, 国際機関, 海外の開発関係研究機関等

□ インターンシップ

現場実務を学びながら研究上の問題意識をより明確にするための支援

【修士課程】

修士論文・学位審査

修士学位

専門職業人として
キャリアアップ

【博士課程】

拠点大学, 社会開発コンソーシアム参加機関・団体等のネットワーク

巡回による対面指導

研究指導・論文指導

研究計画策定指導

研究指導計画策定(教員)

研究計画提出

論文計画・調査計画指導

論文執筆資格審査

論文執筆指導

博士学位第1次審査
博士学位審査

博士課程入学

例: 国際公務員,
民間シンクタンク
研究者,
大学若手教員

博士学位

高度専門職業人
(管理者ポジションへの
キャリアアップ)

社会開発領域の研究者としてのキャリア

(大学・大学院の教員、国際機関・援助機関・企業の研究職への採用)

※本専攻は、同専攻修士課程から博士課程へと一貫する教育・研究指導による研究者養成に組織的に取り組んでいます。
(この取組みに対して、文科省「魅力ある大学院教育」イニシアティブ事業2005に採択されました。)

2. 本研究科の教育体系と教育概要

研究科で開講する科目形態の略称としては、大きく分けて次の3種があります。

- 1) テキスト科目
- 2) スクーリング科目
- 3) リサーチ科目

*なお、単位認定の対象外ですが、学生の要望に応じフィールド調査のアドバイスや指導を行うことがあります。

1) テキスト科目

テキスト科目とは、原則としてテキスト教材を使って学習を行う科目をいいます。各自がテキストを講読し、ホームページ上で他の履修者とのディスカッションやメールによる担当教員との質問・応答などを行いながら学習を進めていきます。その後、レポート試験が行われ、合格すれば単位認定がなされます。

修了に必要な単位数のうち最低 14 単位分については、このテキスト科目により取得する必要があります。どのような科目を履修するべきかについて「リサーチ科目」の担当教員からアドバイスを受けるなどして、各自の研究主題に合う科目の履修を行ってください。

テキスト科目は、以下のとおり、教育的位置づけによって「基礎教育科目」、「展開科目」（さらに展開科目ⅠおよびⅡの小区分あり）の2つの科目群に分けられます。テキスト科目はすべて2単位で、学習期間がいずれも半年間で完結します。

■基礎教育科目

「基礎教育科目」は、大学院で研究を進めるにあたって必要な、研究方法論やフィールド調査法を学ぶとともに、「開発学」の全体像について早い段階で俯瞰し把握することを大きなねらいとしており、本研究科における学習・研究の導入教育として位置づけられた科目群です。

1年次に、この「基礎教育科目」から少なくとも2科目以上を履修することが推奨されています。同時に、修了要件としては、「基礎教育科目」から2科目4単位以上の取得が必要です。

<基礎教育科目一覧>

- (1) 開発研究入門*
- (2) 国際社会開発の基礎
- (3) 研究方法論
- (4) 社会調査とデータ解析

*「開発研究入門」は対面形式の集中講義です（講義日程は主要日程を参照のこと）。

■展開科目

展開科目は、実学としての開発学に必要な基幹的な知識と方法論を修得し、国際社会開発関連分野の中で履修者の個々の関心を掘り下げる科目群です。「基礎教育科目」の履修により「開発学」の全体像や研究課題と研究の進め方などを大まかに把握する一方で、各自の志向する研究主題に向かって、「開発学」の諸分野を具体的に体系化していくことをねらいとして開講される科目とともに、さらに学際的で厚みのある学習・研究を進めるための科目として、「福祉開発」的領域を重視した科目を設けています。

これも、“人間を中心とした開発”を追究する本研究科の教育特色の一つです。積極的な履修を勧めます。なお、この科目群には必ずしもテキストを使用しない、教室での対面型授業も含まれています。

「展開科目」は、展開科目Ⅰおよび展開科目Ⅱの2つのカテゴリーを設けています。履修要件（2016年度入学から適用）は、展開科目Ⅰおよび展開科目Ⅱの中から5科目10単位以上です。2つのカテゴリーにわたってバランスよく履修してください。

<展開科目一覧>

○展開科目 I

- (1) 途上国社会経済論
- (2) 開発組織・制度論
- (3) 地域社会システム論
- (4) 開発経済論
- (5) 開発のミクロ経済学
- (6) 参加型開発論
- (7) 開発評価論
- (8) 地域社会開発論
- (9) 環境計画論

○展開科目 II

- (10) 福祉と開発の人的基礎
- (11) 国際保健論
- (12) 障害と開発
- (13) 開発協力論
- (14) マイクロファイナンス論
- (15) 国際開発ワーカー（支援者）のためのビジネスの基礎
- (16) 現地語による開発事例研究
- (17) Social Development
- (18) Social Development Case Studies
- (19) 福祉社会開発演習
- (20) 国際社会開発特論 I（単位認定科目）
- (21) 国際社会開発特論 II（単位認定科目）

■通学制大学院との共通科目

「私の研究テーマと研究方法」は、通学制大学院 社会福祉学研究科心理臨床専攻および医療・福祉マネジメント研究科との合同開講で、名古屋キャンパスにて行われる対面授業です。

2) 地域開発研究科目（スクーリング科目）

地域開発研究科目では、海外ならびに日本国内において年間授業計画の中で予め決められた期間・会場で対面によって行うスクーリングを実施しています。

本研究科では、この「地域開発研究科目」群（各科目 4 単位）を<スクーリング科目>と呼称し、以下のとおり 5 科目（1 科目休講）を設置しています。

本課程の修了に必要な単位のうち、以下の科目(1)～(6)から少なくとも 2 科目 8 単位を取得しなければなりません。ただし、2 科目の実施国は異なる国でなければなりません。

<地域開発研究科目一覧>

- (1) 日本及び東アジア地域開発研究（日本スクーリング）
- (2) アフリカ地域開発研究<休講>（ケニアスクーリング）
- (3) 南アジア地域開発研究（インドスクーリング）
- (4) 東南アジア地域開発研究（フィリピンスクーリング）
- (5) 特定地域開発研究
- (6) 海外開発実践

3) リサーチ科目

リサーチ科目とは、個別的な研究指導と修士論文執筆に関わる指導を行う科目群をいいます。

この科目群を構成する授業科目「国際社会開発演習」では、指導教員がそれぞれのテーマを掲げています。皆さんはこの科目の履修の中で指導教員の研究指導・論文執筆指導を受けて修士論文を作成していくこととなります。修了には、この国際社会開発演習の8単位を取得する必要があります。

修士論文指導プロセスは、「研究科主要日程」のページに掲載している日程で進められていきます。日常的な質疑応答を含めこの科目の指導は、主に、本研究科専用ホームページ上に用意された「掲示板」（通学制における“教室”に当たります）や E メール等を活用してインターアクティブに行われることとなりますが、スクーリングの機会を利用した対面指導も行われます。また、必要に応じて個別対面指導が行われることもあります。

この科目の単位認定は、修士学位論文の最終審査の合格をもってなされます。

最終審査は、原則として論文審査に加え口頭試問により行われます。やむをえない場合のみ、申請により口頭試問を査読審査に代えることが出来る場合があります。

<国際社会開発演習科目で掲げられているテーマ一覧>

- (1) ソーシャルビジネスと開発
- (2) 制度開発
- (3) 開発と文化
- (4) 障害と開発
- (5) ミクロ開発
- (6) 情報と開発
- (7) 環境と開発
- (8) 住民主体の開発
- (9) 福祉開発
- (10) 地域マネジメント

【2018年4月現在】

以上